

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会 ＜意見交換会＞		会議場所 全員協議会室
			担当職員 佐藤
日 時	令和元年8月29日(木曜日)	開 議	午後 1時 30分
		閉 議	午後 3時 17分
出席委員	◎小川、○奥野、田中、赤坂、藤本、竹田、菱田（齊藤議長）		
出席者	【産業観光部】吉村部長、【商工観光課】三宅課長、栗林観光担当課長、橋本観光振興係長		
	【一般社団法人亀岡市観光協会】楠会長、川本副会長、木戸副会長、渡邊副会長、内田事務局長		
出席事務局	山内事務局長、鈴木議事調査係長、佐藤主任		
傍聴者	市民0名	報道関係者0名	議員1名(木曾)

会 議 の 概 要

13:30

1 開会

亀岡市議会産業建設常任委員会委員長（あいさつ・開催趣旨説明）

<小川委員長>

（あいさつ）

（開催趣旨説明）

先般、当委員会では、岐阜県高山市のインバウンド観光施策について、行政視察を行った。その際に、亀岡市の観光施策は滞在型観光から、宿泊型観光に重点を移行する必要があると考えた。亀岡市は交通アクセスの向上により大変訪れやすいまちとなつてまいる。しかし、点在する亀岡のすばらしい自然、文化や歴史などの魅力を結びつけ、特色のあるまちづくり、市民が誇れるまちかめおかを創造し発信を続けなければ、通過型による消費の低迷や、観光客や市民の市外への流失をさらに招く懸念があるのも現実的ではないかと思っている。

東京オリンピック・パラリンピックや大阪万博が終われば、観光客も一気に落ち込むことが予想される中、早めに手を打ち、インバウンドを含む観光施策について積極的に取り組むべきであると考えている。

当委員会では、本市の観光振興についてさまざまに議論し、他市への行政視察を行うなど、積極的な調査活動を行っている。そのような中でまさに今年は、2020年のターゲットイヤーを見据え、行政を初め、市の観光施策を担う観光協会の方々を交えた中で、一度関係者のご意見等を直接お聴きし、今後の議会委員会活動にも役立てていきたいとの思いから、今回の意見交換会の場を設けさせていただいた。ぜひとも、観光の戦略を立てる立場、実行する立場からそれぞれのご意見をお聞かせいただき、また、議会としても積極的にかかわれることや議会への要望などもお伺いしたいと思っているので、本日の場が今後の観光行政、また観光協会のますますのご発展に資することをお祈りし、開催のご挨拶とさせていただきます。

2 開会あいさつ

・亀岡市観光協会会長あいさつ

<楠会長>

(あいさつ)

亀岡市の観光入込客数は昨年292万人であり、もう一步で300万人であった。昨年は保津川下りが自然災害で100日欠航したこともあり、4万人弱の落ち込みがあった。今年こそは、300万人を超えたいと考えている。花火大会も12万人に来ていただいた。亀岡の観光客が急激に増えたのは、平成3年のトロッコ列車の開業からである。平成30年度の保津川下りは17万9,000人、湯の花温泉は25万5,000人、トロッコ列車は123万7,000人、神社仏閣は39万2,406人、観光イベント等は85万5,000人、合計で292万406人となった。来年に向け、京都スタジアムの竣工や大河ドラマ館を1年間限定で開館する。来場者が50万人を超えたら、利益が出ると言われているので、ご協力をお願いしたい。来年8月には東京オリンピック・パラリンピックがある。2021年には、関西マスターズの大阪大会が2府6県で開催され、誘客したいと考えている。2025年には大阪万博が開催されるので、追い風を利用して、それ以降も亀岡市の観光客が増え続けるように期待したい。京都市内には5,500万人以上の観光客が来ており、その1割の550万人を亀岡市に誘客したいと考えている。近い将来に実現できると期待している。9月21日はコスモス園の開園、10月23日から25日には亀岡祭が開催される。秋の観光シーズンに向けて我々も頑張っていきたいと思うので、ご協力をお願いしたい。

・亀岡市産業観光部長あいさつ

<産業観光部長>

(あいさつ)

先の大踊り大会、花火大会では、多くの方にご協力いただき、これまでの記録を更新する多くの皆様に参加していただき無事に終えることができた。いよいよ来年1月11日は京都スタジアム、「麒麟がくる」京都大河ドラマ館がオープンする。それぞれのムードの盛り上げはもちろんのこと、ブームで終わらせないための観光戦略の準備期間として、これからの4カ月間が重要となってくる。本日はテーマに沿って担当者から説明し、意見交換をお願いしたいと考えているので、よろしく願います。

3 出席者自己紹介

(出席者各自自己紹介)

13:43

4 意見交換

テーマ「亀岡のにぎわいのあるまちづくり」

<小川委員長>

(テーマ設定説明)

冒頭でも申し上げたとおり、2020年のターゲットイヤー、さらには、2021年から先を見据え、議会としては、この機会にしっかりと議論して、本市のにぎわい創出につなげていきたいと考えている。本市は、京料理・京菓子の食材生産地として、また、保津川下り、トロッコ列車、湯の花温泉の3大観光をはじめ、城下町文化や自然景観等、魅力的な観光資源を多く有している。

これら本市のもつ魅力を高め、観光客をいかに多く本市へ取り込み、宿泊してもらい、観光消費の拡大につなげることができるかが大きな課題である。

そこで、当委員会の取り組みテーマである、「亀岡のにぎわいのあるまちづくり」について、今回、意見交換の大きなテーマとさせていただいた。

このテーマに関して、①ターゲットイヤーに向けての取り組み②「京都・丹波」としての広域観光の推進の2つの側面から、それぞれ行政の取り組みや考え方、観光協会としてのお考えなどをそれぞれお聞かせいただき、意見を交換していきたいと思う。

(1) ターゲットイヤーに向けての取り組みについて

<小川委員長>

2020年は大河ドラマ「麒麟がくる」の放映開始や大河ドラマ館の開館、京都スタジアムの完成、東京オリンピック・パラリンピックの開催と本市の観光施策によって、最大のチャンスが到来する年となる。このチャンスを的確に捉え、最大限生かす取り組みを進めていく必要があると考える。そこで、それぞれのお立場から、2020年ターゲットイヤーに向けての、今後の取り組みや、2021年以降のビジョン等をお聞かせいただきたい。

<観光担当課長>

現状として、2020年にサンガスタジアム by Kyocera（以下「京都スタジアム」と記載）が完成し、大河ドラマ館のオープン、東京オリンピック・パラリンピック開催など目白押しとなっている。取り組み案として、2020年のターゲットイヤーを見据えた、一過性に終始しない継続し安定した2021年以降の観光誘致につなげることをテーマとして、来年度事業に取り組んでいく。

2021年度以降に向けた2020年度の観光施策について、京都スタジアムを拠点とした、城下町、市内中心部外への周遊観光の促進をする。京都スタジアムを中心として、大河ドラマもアイテムの1つと考える。宝探しゲームなどの亀山城下町の散策を充実させる。また、2次交通の充実とシャトルバスの運行を進めたいと考える。その他、明智光秀をきっかけとした市内ハイキングコースの充実や出雲大神宮や穴太寺などの亀岡七大観光にスポットを当てていきたい。また、匠ビレッジやガーデンツーリズム、ロケーションオフィスなどのコンテンツの充実を図っていきたい。さらに、保津川下り乗船場周辺やトロッコ亀岡駅周辺の観光振興ビジョンを今年度に策定していく予定である。

<内田事務局長>

国においては、2020年の訪日外国人旅行客を4,000万人に目標を据えており、インバウンドを中心とした観光振興を図っている。また、まち歩き観光についても重点を置いている。

観光協会としては、来年のターゲットイヤーに向けて、京都スタジアムの竣工、大河ドラマ「麒麟がくる」の放送に向けて各種事業に取り組んでいく。

1つ目は、光秀公関連パンフレットと城下町案内パンフレットの改訂版を発行していく。また、特に今年度は光秀公による亀山城築城をテーマに掲げ、城下町をめぐる宝探しゲームの開催を行う。

2つ目は、来年1月11日からの大河ドラマ館に4件目となる観光案内所の新設に向けた計画準備を進めており、併設される物販店との連携・調整を行っている。また、ドラマ館駐車場と旧亀岡会館バス駐車場の運営管理を行っていく。

3つ目は、かめまるマートの新規商品を順次企画・開発していく。秋から年内をめ

どに商品化を進める。

4つ目は、光秀公ゆかりの地への誘客・周遊に向けた環境整備を進めていく。亀山城址や光秀公首塚、ガイドの会などと連携・調整を図っていく。

5つ目は、三大観光をはじめ、季節の行催事情報を旅行エージェント等に積極的に提案し、魅力ある本市の観光資源を継続的に発信していく。

6つ目は、ホームページを充実させるとともに、特に、まち歩きモデルコースの情報発信を充実させたいと考える。

<赤坂委員>

1番問題なのは、観光消費額である。現在亀岡に200万人の観光客が来て、観光消費額が700万円である。トロッコ亀岡駅で100円でも使ってもらえるようにしてもらいたい。ハイキングコースの整備もいいが、トロッコ亀岡駅まで来ている観光客にどうしたら、消費額を上げてもらえるかが重要になる。何か考えはあるのか。

<観光担当課長>

トロッコ亀岡駅周辺に物を買うところがほとんどないことが課題だと思っている。今、観光ビジョンを作成しており、次年度以降に周辺にお店ができるような背景をつくらうとしている。

<赤坂委員>

今までたくさん外国人が来ているのに今言っているのは遅い。京都スタジアムも試合のときしか人は来ない。あとは渋滞するだけである。丸投げではなく、観光協会にもっとお金を入れるべき。早く来年にでもチームをつくってやっていくべきである。1つに絞って、考え直して観光にもっとお金を使ってほしいと考える。SNSもチームをつくって、観光協会と協力しながら、行政はしっかりしてもらいたい。

<観光担当課長>

ご指摘のとおりである。128万人がトロッコ亀岡駅に来ているので、1人10円使えば1,280万円、100円使えば、1億2,800万円になる。1人1人の観光消費額を上げていくためのいろいろな施策を考えていきたい。

<藤本委員>

高山市は入込客が440万人のうち、宿泊客が220万人でものすごい数である。インバウンドが55万人である。別府市は入込客が880万人のうち、宿泊客が250万人であった。京都スタジアムができて、ターゲットイヤーで人口減少に歯止めをかけて、亀岡経済を活性化していこうとするわりに対応が遅い。ホテルの建設は間に合うのか。東京オリンピック・パラリンピック、大河ドラマが終わったときに、亀岡の魅力づくりができていなければ、どんどん観光客は減っていく。仕掛けはしっかりできているのか。景観条例も進んでいない中、どういう魅力を発信するのかわかっていないと感じる。嵐山や大阪圏からどのような形で誘客していくのか具体的な案はあるのか。

<観光担当課長>

インバウンドについては、森の京都DMOが主に取り組んでおり、行政も連携している。情報発信に係る費用はほとんどなく、連携しながらやっている。

<藤本委員>

実績はどれくらい出ているのか。

<観光担当課長>

森の京都DMOの報告によると、ツアーで来ていただいた方で売り上げが800万円のうち、収入が300万円である。東京でのプロモーション等により、来ていた

だいたと推測している。

<竹田委員>

トロッコ亀岡駅まで多くの外国人がさまざまな国から訪れている。来た人はそのまま電車に乗って帰っている。駅周辺での立ち寄り場所を行政がやろうとしてもなかなか難しいので、民間の活力でなんとかならないのかと感じる。トロッコ亀岡駅では、小人数のグループで動いている人が多いので、時間に左右されず停留時間が多くあるのではと思う。行政が一定の旗振りをして、民間の活力を使えないかを感じる。

<観光担当課長>

周辺に17カ所の食事場所があるが、周知されていない。団体はバスですぐ次の場所へ行ってしまうので、お金を使う時間がないこともあると感じる。

<藤本委員>

バスと契約するなど、仕掛けを考えていけないといけない。打つ手が遅い。

<観光担当課長>

団体に向けては、旅行会社の商談会や直接営業でプロモーションしている。個人向けには不足していると感じる。

<赤坂委員>

駅等の案内がわかりづらいと感じる。観光案内所の対応も悪く入りづらいので、楽しいつくりにしてもらいたい。

<楠会長>

今までは、三大観光がありながら、点と点になっており、周遊する観光客がなかった。トロッコ列車で来て、そのまま京都に帰る。食事は嵐山でとるというパターンだった。それを、1つの線で結ぼうと今動いている。例えば、湯の花温泉で1泊してもらい、次の日に保津川下りで帰ってもらうというような、それぞれの観光地がコンタクトをとって連携している。それぞれは地道な努力をしてもらっているが、それを結びつけるという部分が不足していた。

トロッコ亀岡駅周辺もお店を法律上つくれないうと聞いている。京都府は保津川の氾濫が落ち着くまでは許可ができないと言っている。もうそろそろ許可してもらいたいと思っている。特に、食事処はあるが、そこまで行く手段がない。トロッコ亀岡駅でレンタサイクルをやっているのを、活用してもらえようにもっとPRしていきたい。できるだけ、客単価が高い、湯の花温泉で食事をしてもらえようようにしていきたい。観光案内所の対応についても改めていきたい。

<商工観光課長>

これまで市としては、観光客を増やす視点で、外向けの発信ばかりに重点を置いてきた。観光地の受け入れ態勢の整備ができていないところが多々ある。冒頭申し上げたとおり、観光振興ビジョンということで、トロッコ亀岡駅周辺、保津川下り乗船場周辺の土地活用の利用そのものから見直しを図り、民間活力なども活用していきたいと今準備を進めている。来年再来年の観光振興に向けて進めていく。点で存在する観光地を線で結ぶことができていなかった。また、京阪京都交通(株)とも協議して、2次交通の整備を図り、観光地をめぐるような、商業振興にかかわって土産物屋にも周遊するような形でのモデルづくりを進めているところである。森の京都DMOと観光協会と亀岡市と3つの団体が業務のすみ分けを行い、市としては今後、観光地の整備に力を注いでいけたらと考えている。

<菱田委員>

行政はお金をつける、発信は観光協会や商店街などが得意分野でやってもらうのが

いいと思う。高山市も行政主導ではなく、地元の人が町屋を何とかいい形で残したいという思いから始まり、行政は、「国でこんな予算があるから使いませんか」とプレゼンした。先ほど、三宅課長がこれからこうしていきたいと言っていたのは、まさにそこだと思う。我々議員はすぐに「行政は何をしていたのか」と言ってしまうが、常にアンテナを高く上げて情報収集するが、プレゼンをして、実際に市民が動いていく。そうすることによって、自然と市民のにぎわいが増えてきて、観光客が増えてくると思う。そのように、安定した観光振興を図っていくことが大事だと思う。

<木戸副会長>

先ほどから、トロッコ亀岡駅まで来ている120万人の観光客をどのように市内の観光地に取り込んでいくのか聞いているが、どうしたらいいのか私も見当がつかない。まちを魅力あるものにしていくことが大事だと思う。観光客のトイレ問題や全てを残すのは無理があるので、部分的にまち家を残したり、行政を含めてそういう施策をやってもらいたい。ランドマークで魅力ある観光地づくりをやるしかないと思っている。まちの魅力づくりを観光協会が民力の1つの力となって引っ張ってくる、それを議員や行政にサポートしていただく。一生懸命やっても、自分たちでは手が届かない。できれば、ききょうの里については、(公財)亀岡市都市緑花協会に運営してもらい、地元がサポート役をしていく形がいいと思う。ききょうの里はいつ潰れてもおかしくない状況である。今後もサポートいただきたい。

<藤本委員>

観光地はいい方向に伸びてきている。心配なのは、ホテルができるが、稼働率を7割にするために、京都スタジアムをどう活用していくのかである。嵐山から観光客をどう誘導していくのか、交通アクセスを含めて考えていく必要がある。

14:35

(2)「京都・丹波」としての広域観光の推進について

<小川委員長>

本市において、京都府南部の宇治市を先駆けとして、隣の嵐山、大阪方面や北部の宮津や舞鶴など、主要観光エリアを訪れる観光客を取り込むことは、相互利益にもつながり、インバウンドを含む広域観光の視点として必要なことと考える。そこで、広域観光の推進について、今後のビジョンやお考えなどをお聞かせいただきたいと思う。

<観光担当課長>

現状については、広域観光としての取り組みは、京都府と兵庫県の7市町の「大丹波観光推進委員会(以下「大丹波」と記載)」、京都府5市町の「森の京都DMO(以下「DMO」と記載)」、亀岡市・南丹市・京丹波町の「京都丹波観光協議会(以下「京都丹波」と記載)」での活動がある。

主な活動は、大丹波では、旅まつり名古屋での観光プロモーションや、ホームページ運営、大丹波サポーター運営などである。年間110万円の予算であるが、亀岡市からの支出はない。

DMOはインバウンド全般である。ヨーロッパ及びオーストラリアで重点的にプロモーションを行っている。市もファミトリップなどで連携している。旅行会社との商談会や商品開発、組織運営、メディア情報プロモーションも一括して行っている。京都丹波は南丹地域としてまとまりがあり、行動するには動きやすい規模となっている。京都丹波を核とした広域観光誘致を継続・定着していきたいと考える。地域

内外に向けた観光プロモーションや商談会、メディア・媒体・旅行会社へのアプローチなど積極的に働きかけている。新たな仕掛けとしては、車で2時間圏内の名古屋や岡山、北陸にアプローチしていく。また、観光分野の行政職員の人材育成や明智光秀と京都丹波ブランドの普及・定着、DMOと大丹波との連携事業も進めていきたいと考える。

<内田事務局長>

DMOや京都府観光連盟、京都丹波エリアの観光団体、観光連携協定を締結している宇治・舞鶴両市観光協会との連携による広域観光を推進している。

1つ目は、特に、DMOの構成団体との定期的な連携会議を開催し、DMOとツアー造成を共同実施していこうと計画している。観光地のコラボチケットなどができないかを考えている。

2つ目は、京都丹波にオブザーバーとして参加している。10月に1週間東京都庁で行われる観光物産展に参加する。

3つ目は、大丹波における大河ドラマのPR活動やゆかりの地めぐりなどを共同で企画している。

4つ目は、宇治市・舞鶴市との協定に基づく事業を展開している。共同プロモーションとして、(株)近畿日本ツーリストの商談会への参加や舞鶴寄港のクルーズ船向け物販及び観光PR、タイ旅行博などへの参画を行っている。今後も観光先進地である、宇治市や舞鶴市との連携に努めていきたいと考える。

<赤坂委員>

DMOはよくわからない。成果はどうなっているのか。知り合いに亀岡市に大河ドラマ館ができることを知っているのか聞くと、ほとんど知られていなかった。しっかり宣伝しているのか。

<観光担当課長>

行政としてもDMOに、報告をするよう要望しているが、なかなか出てこない。もっと催促していきたいと思う。大河ドラマ館があまり知られていないのは残念である。DMOと情報共有できていないことが問題だと思うし、DMOの全体像が見えないと感じている。

<楠会長>

DMOの取締役をやっている。海・森・茶と3つのDMOがある。それぞれに観光やまちづくりについても力を入れている。2市1町と綾部市、福知山市が参加している。綾部市と福知山市は海の京都にも参加しており、森の京都に消極的である。中身が見えてこないのはその通りだと思う。

<菱田委員>

大河ドラマが決まって、一番に新聞に載ったのは福知山市である。織田信長の慰霊碑が亀岡にあるがあまり知られていないので、そこからも光秀の人間像を取り込んでもらいたい。

外国人を取り込みたいというわりには、丹波人は英語が苦手である。テレビで見たが、外国人に人気のあるのは、英語で会話ができる大阪の居酒屋であった。そういうところが、亀岡市にかけているところだと感じる。

<観光担当課長>

市内の飲食店等には、「大河ドラマが決まったので、新商品を作って儲けよう」という気持ちが薄い。こちらから働きかければ、反応してくれる飲食店もあった。もっと地元の人から盛り上げようとする気持ちが必要だと思う。

<菱田委員>

行政は英語を勉強できるような場所づくりを提供する必要がある。

<観光担当課長>

飲食店向けの英語講座を行っているが、出席者が少ないのが課題である。

<藤本委員>

絶好の機会なので、連携してしっかりとした仕掛けをお願いしたい。京都まで5,000万人の観光客が来ているので、積極的に取り込んでもらいたい。

<木戸副会長>

京都丹波は課長クラスの人以上が参加している。年間あまり活動していないように感じる。我々は民間の団体で、京都丹波に40社のメンバーを持っている。もっと我々を使えと言いたい。民間と協力しようというなら何か方法があるだろう。例えば、係長や主任クラスに担当させて、京都丹波でのあり方を考える必要がある。上の人で取り組もうとすると、時間がとれない。時間がとれるように、主任クラスが入って動かしてもいいと思う。提案しているが、行政は動いていない。丹波人は壁をつくる癖があるので、2市1町での壁を破ろうとするべきである。行政は破りにくいとは思いますが、係長や主任クラスに取り組んでももらいたい。最後の決断を課長や部長が下していけばいい。

<観光振興係長>

京都丹波は行政側の連携として取り組んでいる。取り組み活動は対外向けのプロモーションが主である。今年度も、出版社・メディア関係にアプローチをかけて、観光地や光秀ゆかりの地を「まっふる」と「雑誌くるり」に掲載してもえることになっている。今後は商品開発などについて、密接に「京・来て観て丹波の会」と連携していきたいと思う。

<観光担当課長>

京都丹波の活動は、トライアスロンや亀岡祭などでの出店や、10月に東京都庁で行われる観光物産展の参加である。年間30事業ぐらい実施している。予算は1市20万円で振興局を含め、年間80万円でこれだけのことができているのは、費用対効果は高いと感じている。

<川本副会長>

観光協会の予算が亀岡市から年間約4,000万円投入されている。実際的に、町並みの整備など人員やお金が足りないと感じている。観光客を呼ぼうとするならば、それなりにいろいろな整備が必要となる。予算が減り、人員も減ってきた。少しでもいいまちづくりができるようにご協力とご支援をいただきたい。

<竹田委員>

亀岡に泊まっている人のうち、外国人は一握りである。ゲストハウスなどでは、長期間滞在して、丹波地域を周っておられる。文化や景色を楽しんでいる。外国人が見て、日本の文化に親しむ何か魅力があり、それがヒントになると思う。その辺りの情報を吸い上げてもらいたい。

<渡邊副会長>

観光というが、亀岡市民がまず大事だと思う。市民が我がまちがいいと言ったら、住み続けると思う。市民のためにお金を使って、それが、観光に何か役立つ知恵を足すのが基本だと思う。京都から30分で来られるまちの人口が減るのはおかしい。1番に市民のことを考えてほしい。

昨年台風21号で走田神社の景色が散々なものになっているので、いいアイデアをいただきたい。

ふるさと納税の返礼品が亀岡の業者以外で使われていたらそれは問題だと思う。

<奥野副委員長>

もっと民間業者に委託すればいいと考える。(株)近畿日本ツーリストや南丹旅行などに亀岡での日帰り旅行を載せてもらえばいいと思う。インバウンドも大事だが、国内のリピーターを増やすべきである。行政同士の情報交換よりもそういったところをうまく利用すればいいと考える。

<赤坂委員>

連携してまめに連絡取り合って、しっかり報告できるようなシステムをつくってもらいたい。

<小川委員長>

最後に、副委員長からあいさつを申し上げる。

<奥野副委員長>

(あいさつ)

今日の会が今後の委員会活動に生かせるように頑張っていきたい。議会としても積極的にかかわりながら、観光客を増やしていき、にぎわいのあるまちづくりを観光協会、行政、議員がともに協力してつくっていきたいと考える。今後ともご協力をお願いします。

<小川委員長>

以上をもって本日の意見交換会を閉会する。

～散会 15:17